

Hello! FUJISEI

No.266

資産の状況は、消費動向に大きく影響を与えます。総務省統計局の「家計簿からみたファミリーライフ」から、二人以上の世帯の貯蓄の状況について見ると、1世帯当たり貯蓄現在高は平均では1,798万円ですが、世帯を金額の低い世帯から高い世帯へと順に並べたときに、ちょうど中央に当たる世帯の貯蓄現在高は1,052万円と平均を下回ります。これは、貯蓄の多い世帯が、平均値を押し上げているためで、約3分の2の世帯は平均値を下回っています。

よく使われる平均値ですが、左右に同じように広がる富士山のように分布しているときには実感に合っていますが、左側から右肩下がりのグラフになるときは、必ずしも実感と合いません。このような場合には、中央値がより実感に合った額となります。

平成26年の1世帯当たり貯蓄現在高は、25年と比べると、59万円増加し、1,798万円となっています。平成24年以降について構成比を見ると、3年連続して定期性預貯金は最も大きな割合を占めています。また、有価証券は24年から26年にかけて2.4ポイント上昇しています。

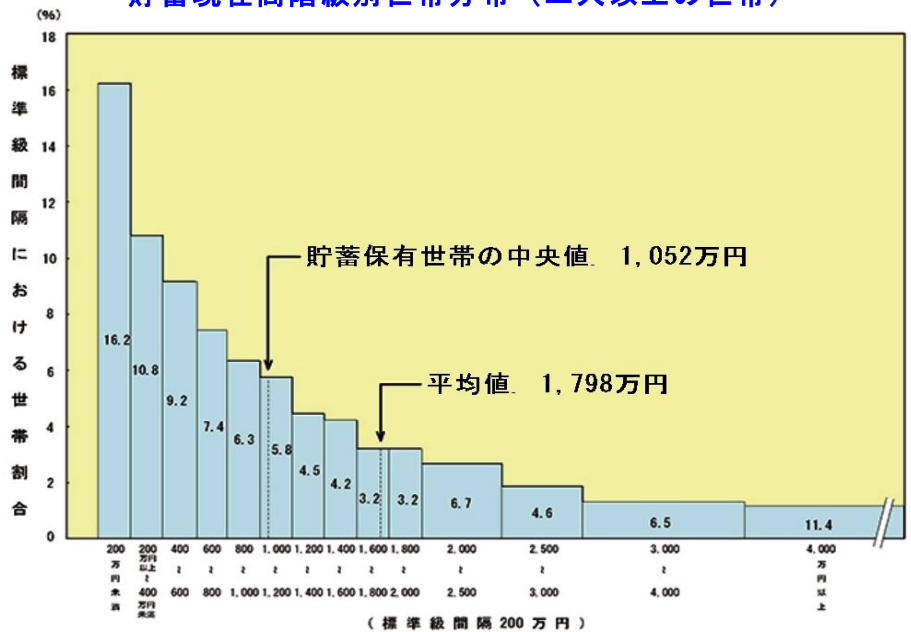
1世帯当たり貯蓄現在

二人以上世帯の貯蓄の状況

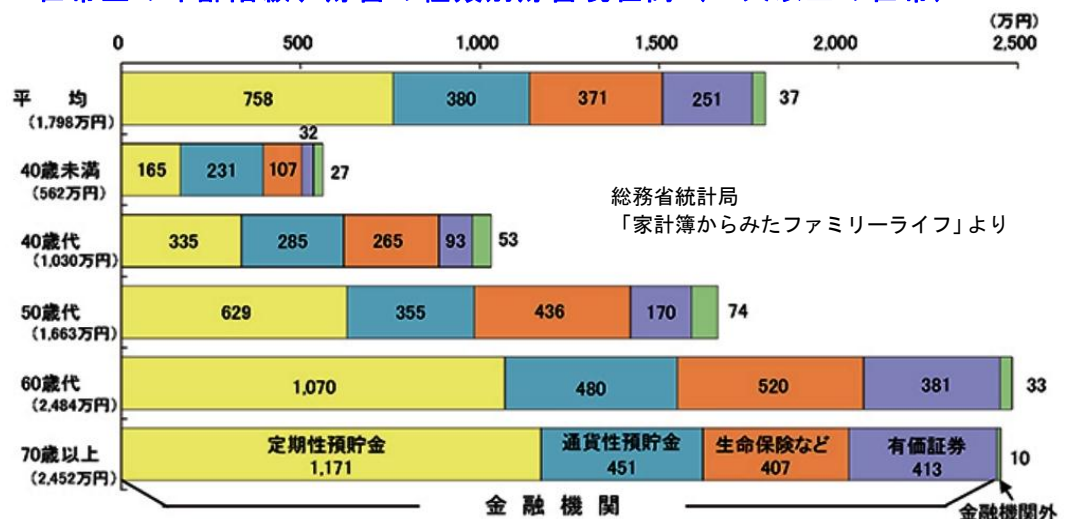
約3分の2の世帯が貯蓄平均値を下回る

高の内訳を世帯主の年齢階級別に見ると、40歳代以上では定期性預貯金が最も多く、40歳未満は通貨性預貯金が最も多くなっています。また、有価証券は、70歳以上で最も多くなっています。

貯蓄現在高階級別世帯分布（二人以上の世帯）



世帯主の年齢階級、貯蓄の種類別貯蓄現在高（二人以上の世帯）



※金融機関外は社内預金など、金融機関以外へ預けた貯蓄

AIG富士生命保険株式会社

〒105-8633 東京都港区虎ノ門4-3-20
神谷町MTビル